



自費リハビリフェス

@大阪市中央会館



イベントのご案内

日程：11月26日（日） 10:00～16:00 場所：大阪市中央会館



主催：有限会社ミウ（Miureha）、松柏苑、一般社団法人リハビリネット協会リハビリサロンまほろば

有限会社ミウ 取締役 三浦 教一



今回イベントを立ち上げたきっかけは、私が自費リハビリをはじめ、当事者の方からのお問い合わせの電話で言われた言葉でした。「保険使えないのはなんでなん？リハビリやろ？」しかも、短い期間で何度も似たようなことを言われました。

そこで初めて、自費リハビリの認知の低さを感じ、自費リハビリがなぜ必要かを世の中にもっと知ってもらう必要があると感じました。

そこでこのイベントを通して、自費リハビリのことを知ってもらう機会にできたらと考えたからです。

自己リハビリのベネフィット

自費リハビリは自分で期間、頻度、担当のセラピストを決めることができ、自分がどの程度のことかしたいかで通い方を変えることができます。

当然、リハビリは頻度が増えるとその効果は高く、そのため、脳の病気になられて半身が麻痺された方はリハビリ病院で1日2回～3回を毎日受けることができます。それはリハビリの頻度が多いほど、回復しやすいことが文献等で証明されているからです。

病気になって半年を過ぎたあたりから、回復が遅くなりやすくプラトーと呼ばれることもあります。しかし、病気になってから時間が経ってからも（程度は個人差が多いですが）、脳は変化することがわかり、上手にリハビリをすれば、改善がみられます。

そのため、最高の結果を得ようと思うと頻度を高く、最高のパートナーと行うことが必要になりますが、退院すると一気にリハビリの数が減ってしまい、担当も決められないため実現するのはかなり難しくなってしまいます。

現状では、退院するとリハビリの数は一気に減ってしまい、担当も決められないため先に述べたことを実現するのはかなり難しくなってしまいます。

しかし、保険外なら自分のしてもらいたい担当者に期間や頻度も自分で決定できるため、リハビリに必要な最高の環境が実現しやすくなります。

また、これは賛否両論があると思いますが、お金をしっかり払うということはデメリットだけでなく、人はお金をかけると回収しようとする傾向があります。

そのため、自分で決断し、ある程度のお金を払ってリハビリをすることはモチベーションなども含めて、効果が出やすい環境づくりの一端を担えると考えます。



- 日 程**：11月26日（日）
11:00～16:00
- 場 所**：大阪中央会館
- 出 店 料**：無料
- 出店募集**：10施設程度
- 参 加 者**：誰でも参加可能
（利用者様、ご家族、自費リハに興味のあるセラピスト、ケアマネなど）
- 主 催**：一般社団法人リハビリネット協会、株式会社松柏苑、有限会社ミウ
リハビリサロンまほろば

イベント概要

自費リハフェスティバルは、自費リハビリを受ける方々とリハビリ施設をつなぐイベントです。このイベントでは、リハビリ施設が出店し、利用者に対して施設の紹介や体験施術を行います。参加者はリハビリ施設の情報収集を行い、自身のニーズにあった施設を見つけることができることが目的です。

スケジュール

- 10:50 開会式
- 11:00～ 体験施術・相談会
- 13:00～ 昼休憩
- 13:30～ 体験施術・相談会
- 15:50～ 閉会式

イベントスケジュール

10:50	開会式		有限会社ミウ 代表取締役 三浦教次
11:00	自由診療と保険診療の違い ～自費リハビリを考える～		佐々木 巖 (大阪肛門科診療所 院長)
11:30			休憩
11:40	脳梗塞予防のための栄養		小西 貴 (トータルヘルスケアラボSORA 代表)
12:10			休憩
12:20	即結果に繋がる！ 治療効果を高めるシーティングの実践 ～日本中の車椅子の常識を、 アップデートしたい。～		宇佐見 将太 (車椅子再発見プロジェクト エバンジェリスト)
12:50			休憩
13:00	痙縮の治療		竹林 成典 (名古屋セントラル病院 脳神経外科医)
13:30			休憩
14:00	居場所づくりを通じ障害受容、 そして社会参加へ		加賀瀬 圭太 (特定非営利活動法人ドリーム 事務局長・理事)
14:30			休憩
15:00	当事者から見た自費リハビリ		司会 三浦 教一 (自費リハビリフェスティバル主催者) 当事者 豊田様、岡崎様 2名



即結果に繋がる！治療効果を高めるシーティングの実践 ～日本中の車椅子の常識を、アップデートしたい。～

宇佐見 将太

理学療法士として、臨床現場で13年勤務。その後、一般企業にて介護施設向けのアプリケーション開発や介護施設のコンサルティングに従事。またプレゼンテーションスキルを独学で習得し、2013年から2015年、Apple Storeにてセミナーを定期開催。以降、学生や経営者、行政向けのプレゼンセミナーやブランディング、コンサルティング実績多数。

2022年より車椅子エバンジェリストとして活動、全国の病院や医療介護従事者養成校で年120回の講演を実施。

車椅子再発見プロジェクトの概要

「日本中の車椅子の常識を、アップデートしたい。」

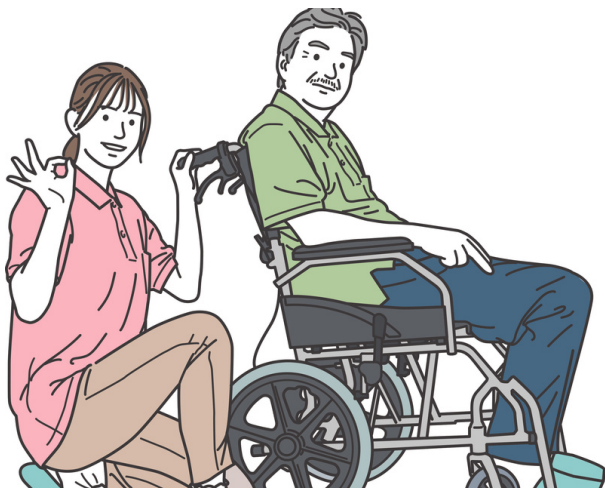
そんな想いが繋がり、2022年からスタートした「車椅子再発見プロジェクト」

このプロジェクトは、伝える技術を10年以上学んできた理学療法士と、車椅子メーカーがタッグを組み、前代未聞の規模で講演活動を行っています。

講演先は全国の医療機関や介護施設、医療従事者や介護従事者を養成する専門学校や大学、福祉フェアや学会など、車椅子に関わる方々が在籍する多くの施設を対象としており、年間の講演数は120回を超えます。

また、車椅子メーカー松永製作所のサポートにより、講演費用や交通費は無料。講演先には、松永製作所の最新型車椅子「グレイスコア」を寄贈させていただいています。

リハビリスタッフと車椅子の間に 立ちはだかる、高い壁。



リハビリ業界では、その歴史と同じ年月関わっていると言っても過言ではない車椅子。医療介護従事者と車椅子、両者は密接に関わっているにも関わらず、近年、車椅子に対する専門的な知識やシーティング技術をもつリハビリスタッフは多くありません。

その原因はさまざまですが、介護保険サービスがスタートして20数年が経過し、オーダーメイドの車椅子をつくる機会が激減したことなどが、要因のひとつとして挙げられます。また、シーティングの専門的な知識を身につけても、多くの医療機関や介護施設では20数年前に購入した車椅子を使用していることがほとんどで、その知識を実践に結びつけていくことが困難でした。

知識を身に付けたくても、なかなか臨床で経験できる機会がない。研修で学んでも、最新型の車椅子を導入し実践に繋げる機会がない。

リハビリスタッフと車椅子の間には、高く分厚い壁が立ちはだかっているのです。そこで、我々のプロジェクトでは、シーティングの基本技術だけでなく、最新型の車椅子をお届けすることで、知識を実践に結びつけていくことに重点を置いています。そしてなにより、車椅子に興味関心をもつスタッフが1人でも増えることを願い、わかりやすく、一生忘れることのできない、心に残る講演になることに重点をおいています。

最新型の車椅子で、 治療効果を最大限に

最新型の車椅子を使えば、オーダーメイドのものを使用しなくても、背張りなどを調整することで、利用者には最適なポジションを設定することができます。円背や片麻痺などを呈した方が、最適な座位姿勢で過ごすことができます。シーティングを活用することで、体幹の安定性を高めることができ、上肢を用いた機能訓練やADL訓練の際、より訓練効果を発揮することができます。車椅子を漕ぐ動作一漕ぎで、一度に進むことができる距離やスピードにも変化をもたらすことができます。

結果を求められる、 自費リハ領域だからこそ



自費リハ領域では、医療・介護分野とは比較にならないほど、結果を求められます。だからこそ、「すぐに、誰でも、継続的に」効果を得られやすいシーティングの知識と技術を身につけることで、治療効果を最大限に高め、結果に繋げていくことができます。

また、こういった高価格帯の車椅子の導入は、施設サービスや介護保険下では、施設や利用者の負担が増えてしまい、導入がなかなか難しい場面もありますが、自費リハの価値を理解してサービスを受けているクライアントであれば、その価値を見出せば購入もいとわないでしょう。

最新型の車椅子の知識と シーティング技術を、あなたの武器に

最新型の車椅子を知り、シーティングを学ぶことは、結果が求められる自費リハ業界で、とても大きな武器になります。そして何より、あなたが関わるクライアントの治療を加速させ、彼らのADL・QOL向上に繋げることができます。

車椅子再発見プロジェクトは、現在6か月待ちのご予約をいただいています。

講演のご依頼は、下記QRコードより、お気軽にお問い合わせください。





脳卒中患者の障害受容と社会参加

加賀瀬 圭太

略 歴

2018年 「脳卒中ドリーム白書2018」出版
2019年 「脳卒中リハビリテーション」掲載
第73回国立病院総合医学会 シンポジスト
2020年 「愛知県作業療法学会誌」掲載
2021年 「国立医療学会誌 医療」掲載 第55回日本理学療法学会研修大会 シンポジスト
2022年 全国脳卒中サロンプロジェクト アドバイザー協力

所 属

特定非営利活動法人ドリーム 理事・事務局長
小規模作業所ドリーム伏見 施設長

はじめに

脳卒中によって後遺症を持たれた方（以下 当事者）は、今まで当たり前が無意識に出来ていたことが出来なくなったり、周囲からの理解が乏しかったり、期待していた社会保障が受けられなかったり、多様な課題に直面するケースが少なくない。そんな状況の中、回復期病院でのリハビリを終えると在宅復帰をし、障害を抱えながら生活を送ることになる。

仕事や家事、趣味やお出かけといった社会参加を実現するため、懸命なリハビリを続け、身体的な改善や維持を目指しているという人もいるであろう。しかし、当事者の社会参加は、後遺症の改善や生活動作の適応だけではなく、その機会を見つけ一歩を踏み出せられなければ難しい。

外出することが交友関係構築や障害受容に影響を与える

当事者の社会参加を実現するためには、当事者の生活実態を把握し、どのようなアプローチが有効であるかを考察する必要がある。ここからは、当団体（NPO法人ドリーム）が2018年に実施した「脳卒中後遺症患者の生活実態調査」のデータを元に考察する。（※この調査は、15名の専門家の協力で作成したアンケート用紙を活用し、東海地方の50団体以上の協力を得て実施。脳卒中による後遺症がある356人に配布され、186人から回答を得ることができた）

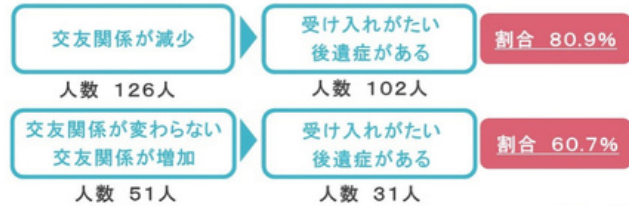
この調査では【図1】の通り、外出の少ない当事者の交友関係の減少率は79.4%（病前と比較）であったのに対し、外出の多い当事者の交友関係の減少率は53.9%（病前と比較）であった。このことから「外出頻度」と「交友関係」は比例することが判明した。

外出と交友関係の関係性



相互に比例 「外出頻度 \uparrow 」=「交友関係 \uparrow 」
「外出頻度 \downarrow 」=「交友関係 \downarrow 」

交友関係と障害受容の関係性



相互に比例 「交友関係 \uparrow 」=「障害受容 \uparrow 」
「交友関係 \downarrow 」=「障害受容 \downarrow 」

さらに【図2】の通り、交友関係が減少した当事者に受け入れがたい後遺症があるか尋ねた結果80.9%があると回答したのに対し、交友関係が変わらない・増加した当事者の同回答は60.7%であった。このことから「交友関係」と「障害受容」は比例することが判明した。

以上のことより、「外出頻度」「交友関係」「障害受容」は相互に比例関係にあることが分かる。外出頻度が増加すればそれに比例して交友関係が広がり、交友関係が広がればそれに比例して障害受容が促進する。障害受容が促進すれば、さらなる外出頻度の向上が期待される。

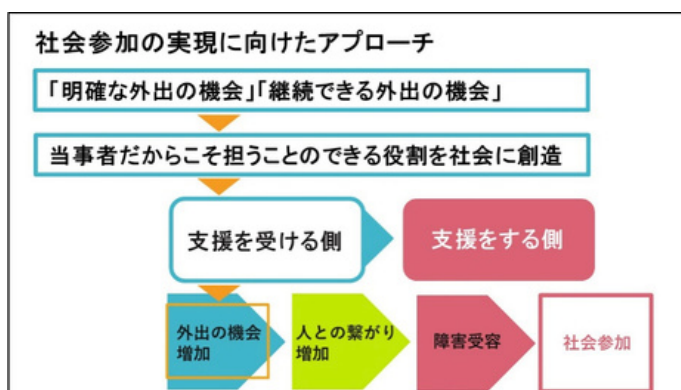
社会参加実現に向けた「外出の機会」の創造

リハビリ等で機能回復することで、身体的に外出が可能な状態（杖歩行、車椅子、福祉サービスの活用も含む）になったとしても、外出しようと決断しうる機会がなければ、外出は困難である。逆に、明確な外出の機会が提示できれば、それを目標とした訓練やアプローチが可能となる。外出達成という成功体験は、意欲増加につながり、リハビリ等に取り組む姿勢が向上することも期待される。つまり、当事者の社会参加を実現するためには、明確な外出の機会を提示できるかどうかが非常に重要となる。加えて、明確な外出の機会は、制度等による制限を受けず、当事者自らの意志で選択でき、継続的に可能なものが好ましい。

社会における役割が社会参加を実現させる

当事者は、医療・福祉サービス・家事・仕事・日常生活動作など、あらゆる場面で「支援される側」に立たされることが多い。一方的に「支援をされる」だけの環境は心苦しいであろうことは想像に難くない。人生において、何かをしてもらう喜びを感じるのと同じように、誰かに喜んでもらうことも重要な要素である。当事者も「支援をする側」として、人の役に立つことや社会貢献する機会が必要なのである。

以上のことから、社会参加のアプローチは「支援をすることで当事者が社会参加を実現する」のではなく、「当事者だからこそ担える役割を社会に創造することで社会参加が実現する」のである。



社会参加を実現させた活動紹介

当団体で実践している、社会参加を実現する活動を紹介する。

病院や学校では、脳卒中の体験を話したり、専門スキル向上のための患者治験モデルとして活動を実施。企業では、トイレ、キッチン、リハビリ機器、システム開発のための治験者、アドバイザーとして貢献。

悩み相談が寄せられた際には、同じ病気を発症した人や家族の相談役を務める。その他、当事者自身が講師を務める習い事教室を開講し、半身麻痺や失語症があっても安心して通える居場所も常時提供している。



どの活動も脳卒中を発症し後遺症を抱えた当事者でなければ担うことのできない役割である。自らの脳卒中という経験を強みとし、社会貢献という形で還元することで、自分たちの役割を社会に見出し、生きがいへとつなげている。こういった活動を通じて仲間ができ、周囲からの影響を受け、自身の後遺症と向き合うことが自然とできるようになっていく。

当団体では、以上のような活動を通して、今まで外出が出来なかったり、人と関わろうとしなかった当事者の多くが、外出出来るようになり、人とつながり、障害受容を高め、社会参加を実現している。

まとめ

最後に、社会参加実現のためには、単独の団体だけでは困難で、相互に連携し協力体制が整わなければ難しい。当団体の取組みも、医療機関や福祉施設だけではなく、一般企業や教育機関など幅広い領域との連携によって可能となっている。一見、脳卒中という疾病とかけ離れている業界との連携が、新たな化学反応を起こし、当事者の社会参加を大きく前進させる可能性を秘めている。そのためにも、社会全体に脳卒中の理解が広がっていくことを願っている。



【 クラファン支援者 】

- ・ 福田千佳志
- ・ Tsukasa apple Yoshida
- ・ 森 宗久
- ・ 伊藤 靖浩
- ・ 石垣 貴康
- ・ 前田 亮輔



【 主催者 】

- ・ 有限会社 ミウ
- ・ 株式会社 松柏苑
- ・ 一般社団法人 リハビリネット協会
- ・ リハビリサロン まほろば



株式会社オーダーメイドリハビリMano

所在地：〒356-0051 埼玉県ふじみ野市亀久保1-3-1

電話番号：070-8383-6761

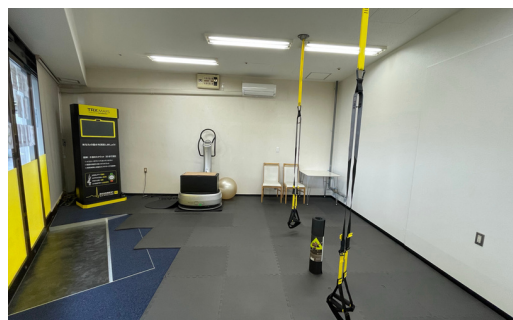
メールアドレス：rehamano2018@gmail.com

HP：<https://rehamano.com/>

代表者：川下勇太郎



特徴：Manoの意味は「手」です。上肢の麻痺や機能不全に力を入れ徒手リハビリを提供しています。発症時期・病気・怪我に関わらず、どんな方でもご対応します。



脳梗塞リハ×トレベース FULL SMILE

所在地：〒664-0017 兵庫県神戸市中央区浜辺通1-1-18

電話番号：070-9011-8476

メールアドレス：ana.ae867013@gmail.com

HP：<https://www.stroke-re-base-fullsmile.com/>

公式line：<https://lin.ee/xcj5b9U>

代表者：足立 尚久



特徴：促通反復療法に電気刺激+振動刺激を合わせた併用療法にて片麻痺に特化したリハビリを行っています。（当施設は川平先端リハラボより公認）

脳梗塞リハビリのぞみ・京都

所在地：〒611-0033 京都府宇治市大久保町旦棕9-19

電話番号：0774-39-8640

メールアドレス：nouriha.n.kyoto@gmail.com

公式line：https://kyoto-rehabiri.com/

代表者：塩見幸菜

特徴：鍼灸により自律神経や筋緊張の調整、痛みの緩和など体の内面からケアをします。そこに、徒手にこだわったりハビリが合わさることで、相乗効果が期待できます。



ロボットリハビリステーション堺東店

所在地：〒590-0077大阪府堺市堺区中瓦町2丁3-18

高砂屋ビル2階

電話番号：072-275-7468

メールアドレス：rb.rehabili@otonoi.jp

HP：http://www.otonoi.jp/

公式line：https://page.line.me/302ghjkg

代表者：蔦本尚展

特徴：装着型サイボーグHAL®を用いたマンツーマン型のリハビリが特徴です。私たちが訪問し、HAL®を使用したリハビリが、ご自宅でも利用可能です。





NEUROスタジオ

所在地：〒550-0013 大阪府大阪市西区新町四丁目4-2
NIKONIKOビル603

NEUROスタジオ東京：

〒164-0012 東京都中野区本町6丁目31番2号
グリーン中野本町102号室

電話番号：NEUROスタジオ大阪：070-8476-4177

NEUROスタジオ東京：080-4942-5223

メールアドレス：NEUROスタジオ大阪：

neurostudio1001@gmail.com

NEUROスタジオ東京：

neurostudio.tokyo0801gmail.com

HP：<https://www.ilneurostudio.com>

公式line：<https://lin.ee/aFyNwgH>

代表者：森高 良樹 施設長：大上 祐司

特徴：成人～小児まで対応する自費リハビリテーションサービス

オーダーメイド型でエビデンスに基づいた段階的なりハビリを海外等で学んだ経験をもとにサポートします。



脳卒中リハビリパートナーズhaRe;Az(ハレアス)

所在地：〒271-0091 千葉県松戸市本町7-13

エクセレントシティ松戸駅前1階

電話番号：047-363-6737

メールアドレス：reha-hareaz@union-cs.co.jp

HP：<https://noureha-partner.com/>

公式line：<https://lin.ee/hQtq33b>

代表者：小林浩之



特徴：通所と訪問の他、遠隔による「まいにち自費リハプラン」を提供しています。装具外来、就労移行支援事業所と連携し、再就職の支援も行っています。

紡（つむぐ）リハビリ

所在地：〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-2-2
ヒルトンプラザウエストオフィスタワー19階

電話番号：06-6133-5432

メールアドレス：support@tumugu-reha.com

HP：<https://tumugu-reha.com/service01/>

代表者：畠 朋成（はた ともなり）

特徴：あなたの「やってみたいこと」と「心身の状態」を知ることによって、今の状態に効果的なりハビリを提供させていただきます。
大阪・兵庫エリアでの訪問型リハビリです。
ご希望があれば、自宅、施設だけでなく、外出先や職場にも訪問可能です。



アンビリカヨガstudio

所在地：〒545-0014 大阪市阿倍野区
西田辺町1-12-7-2F

電話番号：080-1143-3495

メールアドレス：studio@umbilica-yoga.com

HP：<https://umbilica-yoga.com/>

代表者：町田ユカリ

特徴：理学療法士・作業療法士がいる大阪のヨガスタジオです。少人数制なので、ヨガが初めてでも体が硬くても大丈夫！体の改善に特化したヨガスタジオです。男性も歓迎です。





自費リハビリDEEP

所在地：〒562-0031大阪府箕面市小野原東3-13-30
〒533-0033大阪府大阪市東淀川区東中島1-17-5 ス튜디오新大阪

電話番号：080-9126-1788

メールアドレス：info@deep-official.com

HP：<https://deep-official.com>

代表者：杉原 正稔



特徴：理学療法に加え、骨格矯正や整体術、東洋医学など様々な観点から一人一人のニーズに合った最適な施術を提案致します。大阪北摂地域や神戸市内（曜日と時間帯は限定されます）への訪問も可能です。



ナッセボディワークス兵庫伊丹・宝塚

所在地：〒664-0874 兵庫県伊丹市山田5-3-3
スギ薬局2F

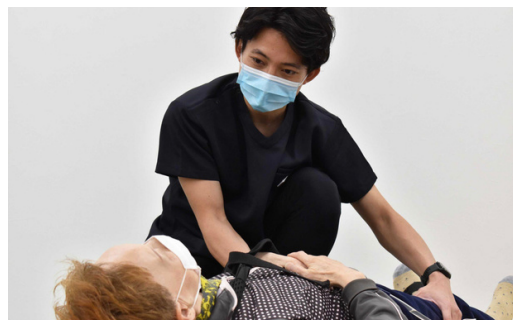
電話番号：080-4794-0540

メールアドレス：ogaya@necess.jp

HP：<https://bodyworks.necess.jp/>

公式line：<https://lin.ee/58PaqS3>

代表者：小栢 崇裕



特徴：兵庫県伊丹市で通所型・訪問型のリハビリをしています。お身体だけでなく、これからの人生がより豊かで幸せになれるようにサポートいたします。